



01 これからの新型コロナ

02 臨床研究部からのお便り
[第46回]

▶ 未治療喘息患者を見捨てない

03 ▶ PDCA研究のご紹介
三重病院へようこそ!04 5病棟生活のひとコマ②
2病棟の子どもたちの生活のひとコマ05 通所支援事業のひとコマ
医療福祉相談室からご挨拶

06 異動のごあいさつ

07 やまばとギャラリー
地域の医療従事者対象研修08 病院からのお知らせ
外来診察のご案内

これからの新型コロナ

こここのところ患者さんとお話していても、コロナはもう終わりが近いという声をよく聞くようになりました。言うまでも無く日本全国の感染者数は徐々に減少していますし、重症患者さんも死亡者数も減少、あるいは低いまま続いています。これは世界においても同様の状況であり、患者数、死亡者数ともに減少していますが、若干の増加と減少を繰り返しているところもあります。患者数は減少と申し上げましたが、それは相対的な認識で、その絶対数は過去の流行波と比べると、当時は大きな問題となっていたくらいの患者数です。実際には検査数は減少していますし、後述しますように流行しているウイルスがオミクロン株にほぼ置き換わったために、軽症例、あるいは無症状例もあって感染しても認識されないということもありますので、実際の患者数はもっと多いと思われるかもしれません。実際にインフルエンザ定点医療機関に受診してコロナと診断された患者数をもとに三重県全体の診断患者数を推計しますと、現在報告されている2-3倍の数になります。しかしながら、以前であれば入院病床が逼迫したり、救急車の受け入れ困難事例がでたりして、患者数をこれ以上増やさないようにまん延防止等重点措置などが行われていたくらいの患者数なのですが、現在はそうなっていません。

どうして患者数は多いのに落ち着いていられるのでしょうか。先に記載しましたように、オミクロン株が流行の主流になっていますので、全体に軽症化しているというのは事実ですが、重症化しないというわけではなく、一定の比率で重症者は出ますので、患者数が増えれば重症例も増えます。そこで、もうひとつ大きな要因となっているのが、多くの国民のみなさんがワクチンによって基礎免疫を付けたことです。感染発症する予防効果は時間とともに落ちますが、免疫学的な記憶ができますので、重症化予防効果は比較的保たれます。これまでの研究によって少なくとも3回のワクチン接種を受けることにより、多くの変異ウイルスに対応出来るような「交叉免疫」が成立するということがわかっています。特に重症化リスクの高い方たちが積極的にワクチン接種を受けて頂いたおかげで、感染しても重症化しなくなっています。また、ワクチン接種を受けることによって、万が一感染しても排出するウイルス量が減少するということが報告されており、重症

化リスクのない65歳以下の方たちのワクチン接種が進んだため、感染しても人に感染を広げにくくなっているということももう一つの要因です。

現在では唯一ワクチン接種から取り残されている小児層での感染が広がっています。多くは軽症で済んでいるようですが、高熱が持続したり、熱性痙攣、あるいはクルーズ病候源にて入院される例もあります。稀ですが急性脳症の報告例もあります。やはり感染者が多くなれば、重症例も増えますし、誰が重症化するかは誰にもわかりません。また、成人では今回の新型コロナウイルスに感染することによって実際に血管や心臓、脳に後遺障害を起こすことがわかっていますが、小児ではよくわかっていません。これらの現在わかっている事実を踏まえて、今後のワクチン接種をお考え頂ければいいかなと思っています。

多くの方が基礎免疫をもってくれば、ウイルスとしては常に地域で感染伝播し、季節性に流行することはあっても、大きな健康被害とはならない、地域流行性(エンデミックと言います)の感染症になっていくものと思われるかもしれません。ただし、これにはウイルスがこれ以上変異しないことという条件が付きます。いまのところオミクロン株の中での変異はありますが、ここから逸脱するような変異株の拡大は見られていません。変異は感染が続く限り起こります。このウイルスは人間以外の動物にも感染することができますし、まだまだ人間での感染は続いておられますので、予断を許すような状況ではありませんが、たとえば屋外でのマスク着用など、現在の流行状況で必要の無い対策は徐々に緩めつつ、我々は常に健康危機に対応出来る体制を保ちつつ、以前の生活に戻していけることを期待しています。

一方では今冬は季節性インフルエンザの流行が危惧されているところでもあり、これらの疾患は症状では区別が付きません。コロナに対する現状の対策が続けば、インフルエンザとの同時流行で現場での混乱も危惧されます。これを考えても、現状を正しく認識して、必要なことはきちんとやって、必要ないことにはこだわらない。これらをみんなで考えて、みんなで行動していくことが必要な時期になっていると思います。

(三重病院院長 谷口 清州)